

# AutoInstaller

Ver. 1.5

ユニテック・ジャパン（株）

## 目 次

Auto Installer .....	4
1. Auto Installer の概要.....	4
2. AutoInstaller の使用方法.....	5
2.1 Flash フォルダの名称.....	5
2.2 Auto Installer の使用手順.....	5
2.2.1 コールドブート.....	5
2.2.2 ウォームブート.....	7
2.3 必要なファイル.....	7
2.4 AutoInstaller の動作について.....	7
2.4.1 Settings.....	8
2.4.2 NoAskReboot.....	8
2.4.3 Sleep.....	9
2.4.4 Close.....	9
2.4.5 Copy.....	9
2.4.6 Execute.....	10
2.4.7 Registry(レジストリ).....	10
2.4.8 Delregistry.....	11
2.4.9 RestoreRegistry.....	12
2.4.10 Startup.....	12
2.4.11 Timeout.....	13
2.4.12 Users.....	13
2.4.13 Application.....	14
3. ヒント.....	14
3.1 Install.ini ファイルについて.....	14
3.1.1 一般.....	14
3.1.2 Close.....	14
3.1.3 Execute.....	14
3.1.4 ファイルの削除.....	14
3.1.5 長いファイル名.....	15
3.1.6 Copy.....	15
3.1.7 REGISTRY(レジストリ).....	15
3.1.8 Startup.....	16
3.2 一般的なヒント.....	17
3.2.1 Windows CE デバイスから AutoInstaller を削除する方法.....	17

3.2.2 F6 - F9 のクイックスタートキーを使用禁止にする .....	18
3.2.3 Windows CE デバイスに個人情報を書き込む.....	18
3.2.4 Cisco 無線 LAN カード設定 .....	18
3.2.5 RFgen の設定 .....	19
3.2.6 ICA クライアントの設定.....	19
3.2.7 バーコード設定.....	20
3.2.8 Microsoft Word を使用してレジストリの違いを見つける方法.....	20
3.2.9 FC.EXE を使用してレジストリの違いを見つける方法.....	21
3.2.10 CAB ファイルのインストール.....	21

## Auto Installer

### 1. Auto Installer の概要

Auto Installer は、PT930SA または PA シリーズポータブルデータターミナルに以下の様な機能を提供するために設計されました。

- コールドスタート後の再設定/再インストールを簡単にする。
- Windows CE の特徴を生かしたまま特定のアプリケーション専用のシステムにする。
- 間違いや意図しない操作からユーザを保護する。
- PT930SA または PA シリーズポータブルターミナルが常時、確実に使えるようにする。

Auto Installer は以下のようなアプリケーションを使用する場合に非常に便利です。

- 無線 LAN とユーザアプリケーションのパラメータを事前にインストールする。  
例えば、RFGEN, Powernet, Citrix, Internet Explorer 等
- WAN とユーザアプリケーションのパラメータを事前にインストールする。  
例えば、ダイヤルアップ接続を伴うバッチデータ収集アプリケーション。

Auto Installer は個別に使用することのできる二つのプログラムで構成されています。

- Install(インストール)プログラム - このプログラムはインストールスクリプトを実行するために使用されます。
- Monitor(モニタ)プログラム - このプログラムはシェルとして Explorer を置き換えます。コマンドまたは自動的に他のアプリケーションをスタートすることができます。



- (2) 日付/時刻設定ダイアログが現れます。  
Windows CE 3.0 では、ダイアログをマニュアルで閉じなければなりません。  
(これは Windows CE に直接アクセスできる場合で、日付/時刻ダイアログが閉じられていない場合)  
Windows CE.NET 4.2 以降では、ダイアログを AutoInstaller によって閉じることができます。([CLOSE]のセクションを参照。)
- (3) あらかじめわかっている無線 LAN カードが挿入されている場合、無線 LAN 設定ダイアログが現れます。
- (4) この後、インストールプログラムがスタートし、インストールアプリケーションは、インストールがまだ終わっていないということを知らせます。  
ここで起こる順序は、インストールアプリケーションで使用される Install.ini ファイルに設定された内容によります。標準的な順序は以下の通りです。
- (5) タスクバーとデスクトップを隠します。インストールプログラムは意図しないユーザの操作から守るためにタスクバーとデスクトップを隠すことができます。
- (6) ダイアログを閉じます - インストールプログラムは、例えば、無線 LAN 設定ダイアログ(他のほとんどのダイアログも)を自動的に閉じることができます。
- (7) プログラムを実行します - インストールプログラムはプログラムまたは他のファイルを実行することができます。
- (8) ファイルのコピー - インストールプログラムはファイルをコピーすることができます。
- (9) レジストリ - インストールプログラムはレジストリをセットまたは削除、もしくはレジストリバックアップファイルを復元することができます。
- (10) スタートアップ - インストールプログラムは標準のスタートアッププログラムをセットすることができます。このアプリケーションは¥My computer にコピーされ、Explorer の代わりに実行されます。Monitor プログラムのみを使用するのがよいでしょう。
- (11) スリープ - インストールプログラムは、ある時間待ちます。例えば、ある設定がプログラム実行後保存されるまで待ちます。

以下は Monitor プログラムに関するものです。

- (12) タイムアウト - インストールプログラムは Monitor プログラムについて停止するタイムアウトをセットすることができます。
- (13) ユーザ - インストールプログラムは Monitor プログラムについてユーザ設定をセットすることができます。

- (14)アプリケーション – インストールプログラムは Monitor プログラムによって  
スタートする標準アプリケーションをセットすることができます。
- (15)ターミナルはウォームスタートします。

### 2.2.2 ウォームブート

インストールアプリケーションで、以下を定義することができます。

他のアプリケーションを実行、あるいは  
Explorer を実行

本マニュアルの AutoInstaller の例では、Explorer は実行せず、Monitor プログラムを実行  
します。Monitor プログラムが実行され、そして他の指定したアプリケーションを実行しま  
す。

### 2.3 必要なファイル

AutoInstaller に必要なファイルは以下の通りです。

すべてのファイルは PT930SA または PA シリーズターミナルの¥Flash Storage になけれ  
ばなりません。そうでなければ、コールドブートの後正常に実行されません。

- (1) Autoexec.txt – 以下の行を含むテキストファイル  
¥Flash Storage¥Install.exe
- (2) Install.exe – Unitech のインストールプログラム
- (3) Install.ini – Install.exe の設定が書かれたテキストファイル  
オプション:
- (4) Monitor.exe – モニタプログラム
- (5) インストールプログラム(.exe または.cab)
- (6) コピーするファイル

### 2.4 AutoInstaller の動作について

再ブート後にインストールを自動的にスタートするには、Autoexec.txt という名前のテキ  
ストファイルが ¥Flash Storage フォルダになければなりません。このファイルはインス  
トールプログラムをスタートするための以下の内容の 1 行があります。

¥Flash Storage¥Install.exe

インストールプログラムは最初にすでにインストールされているかどうかをチェックしま  
す。インストールされていると何もしないで終わります。

まだインストールされていない場合、インストールプログラムは PT930SA または PA シリ

ーズターミナルの¥Flash Storage フォルダにある Install.ini ファイルを開きます。このファイルはインストールプログラムによって行われるすべての操作を含んでいます。このファイルが空の場合、インストールプログラムは何もしません。

Install.ini ファイルはテキストファイルで、セクションに分けられています。各セクションは”[“ と”]” で囲まれるタイトルで始まり、以降に一つ、もしくは複数の操作が続きます。

以下は Install.ini ファイルのセクションの説明です。セクションは Install.ini ファイルに標準的な順序で記述されています。しかし、セクションは特定の順序でなければならないということはありません。さらに、ファイル中の別の場所で複数回セクションを指定することもできます。

#### 2.4.1 Settings

目的: インストール時にタスクバーとデスクトップを隠すかどうか指定します。

注意: RESTOREREGISTRY セクションを使用しない限り、本セクションを複数回使用、あるいは複数行指定しても何ら影響はありません。RESTOREREGISTRY の説明をご覧ください。

表記: DisableDesktop=<value>, DisableTaskbar=<value>

例:

```
[SETTINGS]
DisableDesktop=1, DisableTaskbar=1
```

この行は例の通りです。変数は Value だけで、これらは 1 または 0 です。

1 はデスクトップまたはタスクバーを隠すことを意味します。

0 はデスクトップまたはタスクバーを隠さないことを意味します。

#### 2.4.2 NoAskReboot

目的: AutoInstaller が終了した後、“Tap OK to Restart” のメッセージボックスを出さないようにします。

注意: RESTOREREGISTRY セクションを使用しない限り、本セクションを複数回使用、あるいは複数行指定しても何ら影響はありません。RESTOREREGISTRY の説明をご覧ください。

表記: なし

例:

```
[NOASKREBOOT]
```

### 2.4.3 Sleep

目的: インストールプログラムをある時間待たせたい場合に他のセクションとの間でこのセクションを指定します。例えば、あるレジストリの設定の保存を確実に行うことができます。

注意: 本セクションを複数回使用、あるいは複数行指定しても何ら影響はありません。

表記: <ミリ秒>

例:

```
[SLEEP]
1000
```

### 2.4.4 Close

目的: 他のセクションとの間でポップアップするダイアログを自動的に閉じたい場合に本セクションで指定します。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <class name>, <window name>, <timeout>

例:

```
[CLOSE]
Dialog, 'Cisco Wireless Lan Adapter' Settings, 3
```

Class name は Window class の名前です。Window name は Window の名前で、Window がキャプションを持っている場合、Window キャプションのテキストです。Class と Window の名前を得るために Remote Spy++ (Embedded Visual Tools に含まれるツール) を使用することができます。Timeout は秒で表したこの機能のタイムアウトです。Timeout を 3 にセットした場合、インストールプログラムは Window が現れるのに 3 秒待ちます。3 秒後に Window が現れなかった場合、メッセージが現れ、インストールが続きます。

### 2.4.5 Copy

目的: ファイルをコピーします。標準の設定を上書きするのに最も多く使用されます。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <source>, <destination>

例:

```
[COPY]
¥Flash Storage¥Default.b2k, ¥Windows¥Default.b2k
```

<Source> はパスを含むソースファイルの名前です。<destination> はパスを含むコピー先ファイルの名前です。ソースファイルはコピー先ファイルを上書きします。

#### 2.4.6 Execute

目的: 初期化中にアプリケーションをスタート、もしくは他のファイルを立ち上げます。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <filename>,<parameters>  
<parameters>はオプションです。

例:

```
[EXECUTE]
¥Flash Storage¥icasetup.mips.CAB
¥Windows¥CMD.exe,/C DEL /Q ¥Windows¥Desktop¥inbox.lnk
```

<filename> はパスを含む開始するファイル/アプリケーションの名前です。

#### 2.4.7 Registry(レジストリ)

目的: Windows CE レジストリでレジストリの値を作成または変更します。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <root>, <path>, <value name>, <value data>, <value type>

例:

```
[REGISTRY]
HKLM, ¥Common¥Cisco1¥Parms, TransmitPower, 20, REG_DWORD
```

<root> = 開くためのルートキー

これは以下の一つです。

- HKCR (HKEY\_CLASSES\_ROOT)
- HKCU (HKEY\_CURRENT\_USER)
- HKLM (HKEY\_LOCAL\_MACHINE)
- HKU (HKEY\_USERS)

<path> = 開く/作成するレジストリキーへのパス

<value name> セットする値の名前

<value data> セットする値の内容

<value type> セットする値のタイプ

これは以下の一つです。

- REG\_BINARY (バイナリ値)
- REG\_DWORD (DWORD 値)
- REG\_SZ (ストリング値)
- REG\_MULTI\_SZ (マルチラインストリング値)

REG\_BINARY の注意:

REG\_BINARY タイプを Install.ini にコピーする最も良い方法は以下の通りです。

- .reg ファイルにある必要な REG\_BINARY 値のキーをエクスポートするのに Remote Regedit(Embedded Visual Tools に含まれるツール)を使用します。
- テキストエディタ(メモ帳等)で.reg ファイルを開きます。
- REG\_BINARY 値をコピーして、その名前と文字”=hex:”を除きます。
- “,”と”¥”をすべて除きます。
- データが一行であることを確認して下さい。

REG\_DWORD の注意:

レジストリのエクスポートファイルを使用する場合、DWORD 値はこのファイルでは HEX フォーマットで保存されることに注意して下さい。AutoInstaller は 10 進数を前提としていますので、この場合 DWORD 値は HEX から 10 進数に変換する必要があります。

REG\_MULTI\_SZ の注意:

Install.ini 中の各設定は一行でなければなりません。これはレジストリ設定も、また REG\_MULTI\_SZ タイプもカウントします。REG\_MULTI\_SZ タイプは複数行で構成されるストリングデータを持つレジストリ値を作成するために使用します。各行の後に行の終端として”¥n”を追加することによって複数行を定義することができます。テキスト中に”¥n”がある場合、”¥¥n”を書きます。

REGISTRY セクションは無線 LAN のパラメータ設定をするために使用することができません。

#### 2.4.8 Delregistry

目的: Windows CE レジストリからレジストリキーまたは値を削除します。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <root>,<path>,<key/value name>,<type>

例:

```
[DELREGISTRY]
```

```
HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms,TransmitPower,VAL
```

```
<root> = 開くためのルートキー
```

これは以下の一つです。

- HKCR (HKEY\_CLASSES\_ROOT)
- HKCU (HKEY\_CURRENT\_USER)
- HKLM (HKEY\_LOCAL\_MACHINE)

- HKU (HKEY\_USERS)
- <path> = 開くレジストリキーのパス
- <key/value name> = 削除するキーまたは値の名前
- <type> = 削除するタイプ

これは以下の一つです。

- VAL (レジストリ値を削除)
- KEY (レジストリキーを削除)

#### 2.4.9 RestoreRegistry

目的: Registry ユーティリティプログラムで作成したレジストリバックアップファイルを復元します。

注意:

1. このセクションは 1 回、そして 1 行のみ使用可能です。複数使用すると、最初の行(バックアップファイル)のみ有効になります。
2. このセクションは、このセクションが以下のセクションの後に実行された場合、これらのセクションの効果が無くなります。

- ・ [EXECUTE]
- ・ [REGISTRY]
- ・ [DELREGISTRY]
- ・ [STARTUP]
- ・ [USERS]
- ・ [APPLICATION]
- ・ [TIMEOUT]

インストールについて、どの順序が正しいかをユーザが決める必要があります。

表記: <path>

例:

```
[RESTOREREGISTRY]
¥Flash Storage¥RegBack.dat
```

<path> = 保存されているレジストリバックアップファイルのパスとファイル名

#### 2.4.10 Startup

目的: ウォームブート後に Explorer の代わりにスタートするアプリケーションをセットします。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <filename>

例: [SRARTUP]  
 ¥Flash Storage¥Monitor.exe

filename はパスを含むアプリケーションのファイル名です。 Install(インストール)アプリケーションは高速に実行するために、このアプリケーションを¥My computer フォルダにコピーします。

#### 2.4.11 Timeout

これは Monitor アプリケーションを使用している場合にのみ適用されます。

目的: Monitor アプリケーションのためのサスペンドタイムアウトをセットします。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <milliseconds>

例:  
 [TIMEOUT]  
 180000

Milliseconds は Monitor(モニタ)アプリケーションによって一時停止させられる前の時間をミリ秒で表したものです。 Monitor ウィンドウをタップするか、<TAB>キーを押すと、タイマーはリセットされ、ターミナルを「動く状態」にします。

#### 2.4.12 Users

これは Monitor アプリケーションを使用している場合にのみ適用されます。

目的: Monitor(モニタ)アプリケーションについてユーザを定義します。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <username>,<password>,<application>,<close monitor>

例:  
 [USERS]  
 Administrator,123,explorer.exe,1

<username> ユーザの名前。これは Monitor の内部でのみ使用されます。

<password> ユーザのパスワード

<application> ユーザが正しくパスワードを入力したときに Monitor が起動するアプリケーションの名前。

<close monitor> オプションの値(1 または 0)。これが 1 で相当するパスワードが入力された場合、Monitor アプリケーションは指定したアプリケーションをスタートし、Monitor アプリケーションを閉じます。

### 2.4.13 Application

これは Monitor アプリケーションを使用する場合にのみ適用されます。

目的: Monitor アプリケーションによって起動する標準のアプリケーションを定義します。

注意: このセクションは複数回、そして複数行使用可能です。

表記: <filename>,<parameters>,<ShowInTaskList>

例: [APPLICATION]

¥Citrix¥ceciamgr.exe

<filename> パスを含むアプリケーションの名前です。これらは Monitor アプリケーションによって起動される標準のアプリケーションです。

<parameters> アプリケーションのためのコマンドラインパラメータオプション

<ShowInTaskList> アプリケーションが Monitor のタスクリストに表示されるかどうかを決めるオプションのパラメータ。値は、"0" (タスクリストに表示しない)または"1" (タスクリストに表示する)です。このパラメータは Monitor バージョン 1.19 以降でのみ使用可能なことにご注意下さい、

## 3. ヒント

### 3.1 Install.ini ファイルについて

#### 3.1.1 一般

不要なセクションは、install.ini 中に記述する必要はありません。

#### 3.1.2 Close

自動的に閉じたいウィンドウから Class 名と Window 名を決めるために Microsoft の Remote Spy++(Microsoft の Active Sync で接続しなければなりません)を使用することができます。

#### 3.1.3 Execute

使用方法を説明するテキストファイル(.txt)を含めることができます。

#### 3.1.4 ファイルの削除

ファイルの削除は install.ini から [EXECUTE]セクションを使用します。

例:

[EXECUTE]

¥Windows¥CMD.exe,/C DEL /Q "Windows¥Desktop¥inbox.lnk"

### 3.1.5 長いファイル名

[EXECUTE]セクションと cmd.exe でコマンドラインパラメータと長いファイル名を使用することができます。ファイル名を””の中に入れて、最初の¥をとって下さい。以下の例は表記方法を説明しています。

```
cmd.exe,/C DEL "Windows¥Desktop¥Pocket Word.lnk"
```

### 3.1.6 Copy

アプリケーションで通常使用する標準設定をセットするためにアプリケーションがインストールされた後で(EXECUTE セクション)このセクションを使用することができます。この方法では、アプリケーションをインストールして標準設定をセットするために一度実行する必要はありません。インストールプログラムは標準値ファイルを上書きして自動的にこれを行います。もちろん、これはアプリケーションが設定をファイルに保存している場合のみです。アプリケーションが設定をレジストリに保存している場合は、REGISTRY セクションを使用することができます。

以下のステップを行って下さい。

1. ¥Flash Storage フォルダが空の PT930SA または PA シリーズを用意して下さい。
2. アプリケーションをインストールします。
3. アプリケーションの設定を希望に合うように変更します。
4. 設定が保存されたファイルを得るためにファイルの日付/時刻を見て下さい。日付/時刻は現在の少し前となっているはずです。
5. ファイルを Microsoft の Active Sync を使用して PC にコピーします。
6. AutoInstaller を実行する PT930SA または PA シリーズについて、ininstall.ini の COPY セクションを作成し、ファイルを¥Flash Storage¥のフォルダにコピーします。そして前に説明した AutoInstaller の設定を行います。

もちろん、これは Windows CE にプリインストールされたプログラムでも使用することができます。例えば、バーコードスキャナの設定は¥Windows¥Default.b2k に保存されています。

### 3.1.7 REGISTRY(レジストリ)

アプリケーションで通常使用する標準設定をセットするためにアプリケーションがインストールされた後で(EXECUTE セクション)このセクションを使用することができます。この方法では、アプリケーションをインストールして標準設定をセットするために一度実行する必要はありません。インストールプログラムは標準値ファイルを上書きして自動的にこ

れを行います。もちろん、これはアプリケーションが設定をレジストリに保存している場合のみです。アプリケーションが設定をファイルに保存している場合は、COPY セクションを使用することができます。

以下のステップを行って下さい。

1. ¥Flash Storage フォルダが空の Windows CE デバイスを用意して下さい。
2. アプリケーションをインストールします。
3. アプリケーションの設定を希望に合うように変更します。
4. PC で、リモートレジストリエディタ (Microsoft Active Sync で接続しておきます) を起動します。リモートレジストリエディタは Microsoft embedded Visual Tools に含まれています。
5. 設定が保存されている Windows CE レジストリのセクションを見つけます。これは多くの場合、 HKEY\_CURRENT\_USER または HKEY\_LOCAL\_MACHINE そして、その後は¥Software¥<company name>¥<application name> にあります。ここで、<company name>と<application name> はオプションです。
6. 設定をファイルに出力します。
7. 出力されたレジストリファイルに従って、Install.ini 中の REGISTRY セクションを作成します。
8. ターミナルに自動的にインストールするには、AutoInstaller の設定の前に説明したステップに従って下さい。

もちろん、これは Windows CE にプリインストールされたプログラムでも使用することができます。

### 3.1.8 Startup

STARTUP セクションで Monitor プログラム以外のアプリケーションを使用しない方がよいでしょう。これはアプリケーションが Explorer の代わりに起動するからです。これはアプリケーションが終了したときに Windows CE デバイスがコントロールできない状態のままになるからです。

Monitor プログラムは Explorer を起動し、そしてデスクトップとタスクバーを隠します。スタートアップセクションに独自のアプリケーションを書く場合、アプリケーションの制御を失わずに終了できるように Explorer (explorer.exe) を立ち上げることを推奨します。

ウォームブート後に Explorer のアプリケーションを自動的に起動したい場合、REGISTRY セクションで以下を使用します。

例:

```
[REGISTRY]
HKLM, ¥init¥ Launch<X>, <filename>, REG_SZ
```

Xは立ち上げる順番です。通常、最も低い値は80です。これをチェックするにはリモートレジストリエディタを使用して下さい(Microsoft Active Sync で接続)。10まで追加できません。(最初は Launch80, 次は Launch90 等)。Filename はパスを含むアプリケーションの名前です。

これは Flash Storage に保存されているショートカットを¥Windows¥Startup にコピーするようにも考えられています。

## 3.2 一般的なヒント

### 3.2.1 Windows CE デバイスから AutoInstaller を削除する方法

何らかの理由により Windows CE デバイスで Monitor の終了ができない場合、AutoInstaller を削除します。

以下の操作を行います。

1. Windows CE デバイスをコールドブートします。
2. スクリーンを補正します。
3. 日付/時刻プロパティダイアログを閉じないでください。
4. Explorer を起動します(スタート、プログラム、エクスプローラ)
5. ¥Flash Storage フォルダを表示します。
6. Autoexec.txt を削除します。

上記の操作ができない場合、PC と ActiveSync が必要です。

1. Windows CE デバイスを ActiveSync がインストールされた PC に接続します。
2. ActiveSync を使用して、Explore を開き、¥Flash Storage フォルダを表示します。
3. Autoexec.txt を削除します。

Monitor のバージョン 1.6 からは、常に Monitor を終了することが可能になりました。Monitor.exe を終了するパスワードは、999999.999999 です。

これは、ユーザが指定されていない、あるいは終了の権限がないユーザでない場合、Monitor.exe を終了します。パスワードは開発の木で期でのみ使用し、エンドユーザには与えないようにすることが重要です。エンドユーザは、モニタを終了するための適切なパスワードを持つようにして下さい。

モニタの終了が可能な場合、上記のステップ 4 から 6 に従って AutoInstaller を削除します。

### 3.2.2 F6 - F9 のクイックスタートキーを使用禁止にする

Windows CE デバイスの操作ミス为了避免のために、これらのクイックスタートキーによるプログラム起動が起こらないようにします。

Install.ini に以下のセクションを追加します。

```
[REGISTRY]
HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FkeyProg6,,REG_SZ
HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FkeyProg7,,REG_SZ
HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FkeyProg8,,REG_SZ
HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FkeyProg9,,REG_SZ
```

“FkeyProgX” 値は、FUNC キーと数字キーが同時に押された時に起動するプログラムを表します。この値が空の場合、FUNC と数字キーの組み合わせは意味がありません。

“FkeyProgX” 値の次に、同じレジストリパスの下に “FkeyParamX” 値もあります。“FkeyParamX” 値は “FkeyProgX” が起動したときに送られるコマンドラインパラメータを記述しています。

### 3.2.3 Windows CE デバイ스에 個人情報を書き込む

Active Sync で接続された場合、Windows CE デバイスは標準では WinCE として認識されます。この設定は個人情報として書き込むことができます。

```
[REGISTRY]
HLKM, ¥Ident, Name, PT930, REG_SZ
HKLM, ¥Ident, OrigName, PT930, REG_SZ
HKLM, ¥Ident, Desc, Unitech PT930, REG_SZ
HKLM, ¥Ident, Username, John, REG_SZ
```

### 3.2.4 Cisco 無線 LAN カード設定

```
[REGISTRY]
HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms,SSID1,ASUS WL-300,REG_SZ
無線ネットワーク名に従って SSID をセット
HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms,TransmitPower,20,REG_DWORD
```

カードの動作モードをセット

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms¥TcpIp,IPAddress,10.0.0.131,REG\_SZ

IP アドレスをセット

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms¥TcpIp,Subnetmask,255.255.255.0,REG\_SZ

サブネットマスクをセット

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms¥TcpIp,EnableDHCP,0,REG\_DWORD

DHCP を使用しない

### 3.2.5 RFgen の設定

[REGISTRY]

HKLM,¥SOFTWARE¥DataMAXSG¥RFGenCE,Host1,10.0.0.25,REG\_SZ

HKLM,¥SOFTWARE¥DataMAXSG¥RFGenCE,Port1,21098,REG\_SZ

HKLM,¥SOFTWARE¥DataMAXSG¥RFGenCE,FontName,(Default),REG\_SZ

HKLM,¥SOFTWARE¥DataMAXSG¥RFGenCE,Charset,(default),REG\_SZ

HKLM,¥SOFTWARE¥DataMAXSG¥RFGenCE,ShowMenu,Y,REG\_SZ

HKLM,¥SOFTWARE¥DataMAXSG¥RFGenCE,FullScreen,Y,REG\_SZ

### 3.2.6 ICA クライアントの設定

[SETTINGS]

DisableDesktop=1,DisableTaskbar=1

[CLOSE]

Dialog,'Cisco Wireless Lan Adapter' Settings,3

[EXECUTE]

¥Flash Storage¥icasetup.mips.CAB

[COPY]

¥Flash Storage¥Default.b2k,¥Windows¥Default.b2k

[REGISTRY]

HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FKeyProg6,,REG\_SZ

HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FKeyProg7,,REG\_SZ

HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FKeyProg8,,REG\_SZ

HKLM,¥HARDWARE¥DEVICEMAP¥KEYBD¥FKEYS,FKeyProg9,,REG\_SZ

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms,SSID1,ASUS WL-300,REG\_SZ

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms,TransmitPower,20,REG\_DWORD

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms¥TcpIp,IPAddress,10.0.0.131,REG\_SZ

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms¥TcpIp,Subnetmask,255.255.255.0,REG\_SZ

HKLM,¥Comm¥Cisco1¥Parms¥TcpIp,EnableDHCP,0,REG\_DWORD

HKLM,¥Ident,Name,PT930,REG\_SZ

HKLM,¥Ident,OrigName,PT930,REG\_SZ

HKLM,¥Ident,Desc,Unitech PT930,REG\_SZ

HKLM,¥Ident,Username,Harm,REG\_SZ

[STARTUP]

¥Flash Storage¥Monitor.exe

[TIMEOUT]

180000

[USERS]

Administrator,123,explorer.exe,1

Superuser,456,control.exe,0

[APPLICATION]

¥Citrix¥ceicamgr.exe

¥Windows¥Bar2Key.exe

### 3.2.7 バーコード設定

USI スキャナインターフェースを使用している Windows CE デバイス(PA600, PA962, PA982 等)で、バーコードデコーダチップ(Hamster)の設定は、キー

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Unitech America

Inc.¥Scanner¥Settings¥CURSETTINGS\_HAM の下のレジストリに保存されます。

バーコードデコーダの設定を行うために、このキーの内容をコピーして、Install.ini ファイルに追加することをお勧めします。

### 3.2.8 Microsoft Word を使用してレジストリの違いを見つける方法

Microsoft Word を使用してレジストリ設定の違いを見つけることができます。

1. Windows CE デバイスをコールドブートします。
2. PC で.reg ファイルにすべての HKEY\_CURRENT\_USER と HKEY\_LOCAL\_MACHINE 設定を保存するためにリモートレジストリエディタを使用します。
3. Windows CE デバイスで必要な変更を行います。

4. PC で別な.reg ファイルにすべての HKEY\_CURRENT\_USER と HKEY\_LOCAL\_MACHINE 設定を保存するために再度リモートレジストリエディタを使用します。
5. ファイルを比較するために、Microsoft Word のファイル比較オプションを使用します。

### 3.2.9 FC.EXE を使用してレジストリの違いを見つける方法

FC.EXE を使用してレジストリ設定の違いを見つけることができます。プログラム FC.EXE はすべての Windows PC にインストールされています。

1. Windows CE デバイスをコールドブートします。
2. PC で.reg ファイルにすべての HKEY\_CURRENT\_USER と HKEY\_LOCAL\_MACHINE 設定を保存するためにリモートレジストリエディタを使用します。
3. Windows CE デバイスで必要な変更を行います。
4. PC で別な.reg ファイルにすべての HKEY\_CURRENT\_USER と HKEY\_LOCAL\_MACHINE 設定を保存するために再度リモートレジストリエディタを使用します。
5. 変更をチェックするために PC で FC.EXE を使用します。パラメータ/c/l を使用すると便利です (FC /c/l File1.txt File2.txt)。

### 3.2.10 CAB ファイルのインストール

Autoinstaller を使って標準的な方法で.cab ファイルをインストールすると、インストールするフォルダのパスを入力するダイアログがポップアップします。このポップアップは以下の方法で出さないようにすることができます。標準のパスが使用されます。

1. AutoInstaller で.cab ファイルをインストールする標準的な方法  
[EXECUTE]  
¥Flash Storage¥Setup.cab
2. インストールするフォルダのパスを自動的に確認する方法  
[EXECUTE]  
Wceload,/noaskdest "¥Flash Storage¥Setup.cab"

wceload には以下のオプションスイッチがあります。

/askdest

ユーザがインストール先のフォルダを入力するように指定します

/delete <number>

wceload がどのようにしてインストール後に.cab ファイルを削除するかを指定  
します。値は以下の通りです。

0 cab ファイルを削除しない

1 cab ファイルを削除する。これが標準値です。

2 ファイルをデータのブロックとして扱い、ダイナミックに削除する。